

2014年もよろしくお願ひします。市民の暮らしを守る立場をつらぬいて、皆さんの声を議会に届けます。

十二議会の討論を報告します。

住宅リフォーム助成制度の創設について

【一般質問】

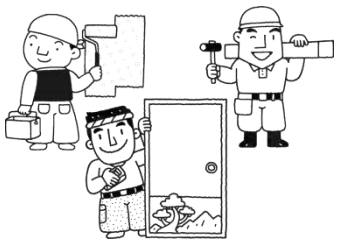
住宅リフォームの市場には、地域外から悪質な業者も参入し、消費者の不安の種になっているところもあります。協議会を作ること、市民は相談窓口や業者の情報も知ることができ、安心して仕事を頼めるようになります。助成制度を「個人財産に税金を投入するから不公平だ」と一面的にとらえず、地域全体に経済効果と雇用を広げられるチャンスとして、積極的に実施するよう求めました。

【堀ひろ子】

安心リフォーム推進協議会設立の進み具合はどうか。県内で12市がリフォーム助成事業を実施し、大きな経済効果をあげている。助成制度を実施する考えはあるか。

【市】

年内に第一回目の協議会、その後の数回の協議会を開催する予定。助成制度の創設について、事業規模、内容、時期などを調整中。



介護保険料軽減について

【一般質問】

介護保険料が高く、年金生活では負担が重く大変だという声が多く寄せられます。保険料を滞納すれば3割負担のペナルティがあり、また保険料を払っても利用料が払えず、介護サービスを受けられない状況もあります。

65歳以上の介護保険料は住民税の課税状況に応じて6段階に設定されています。

堀ひろ子議員は負担軽減策として、所得段階を細かく設定し、被保険者の実態に適応した保険料とするよう提案しました。

財源案としては、介護保険基金を取り崩し、不足分を一般会計から繰り入れることで可能です。

市は「国からの指導で、一般会計からの繰り入れはできない」と答弁しましたが、堀ひろ子議員が「国からの指導は、法律上の義務がないことは国会答弁で明らか」であると追求すると、市は「知らなかった。研究していく」と答えました。

【堀ひろ子】

所得段階の細分化を図れないか

【市】

来年度予定の介護保険事業計画を策定する中で検討していく



指定管理者制度の見直しについて

【一般質問】

2008年の国からの通知で「経費の節減を図る」という言葉が削除され、続いて2010年の通知では「指定管理者が労働法令を遵守すること」が留意点に挙げられました。これらは、指定管理者制度の主要な目的であった「経費節減」が、公共サービスそのものの低下を招くことを明らかにしたからです。

経費の主要部分である「人件費の削減」に直接影響をもたらす、それらが低賃金、雇用形態に現れたからです。指定管理者に関わる官製ワーキングプアの問題などが、国会で度々論議されています。

「経費削減」と「住民サービスの向上」を両輪とした運営の限界が明らかになり、国も見直しを求めているなか、始良市の「指定管理者制度に関する指針」には依然として「経費の節減」が明示されています。

堀ひろ子議員は「指針から“経費節減”を削除するべきだ」と重ねて主張しましたが、市は「経営努力として必要だ」と答弁し、“経費節減”を削除する考えがない旨を繰り返しました。



「住んでいてよかった」と実感できる街づくり

堀 ひろ子



始良、加治木、蒲生3町が合併し、早や4年。2014年度に始良市の議員定数は6名減ります(30名↓24名)。

市民の皆さんの声を議会に届ける議員の役割、責務はますます大きくなります。

私はこれまで加治木町議を4期、始良市議を1期通して19年、住民のいのちとくらしを守る立場を貫いて活動に努めてきました。

特に、子育て支援、学校教育、高齢者福祉の課題には心血を注いで参りました。

今後はこれまでの活動を軸に、地域経済の発展にも精力的にとりくみます。

皆さんの市政への思い、声を、堀ひろ子にお寄せください。

メール horihiroko.airajcp@gmail.com

ホームページ <http://horihiroko.web.fc2.com/>